

# 出国したベネズエラ人、家族の肖像

Venezuelanalysis.com

Nov 13th 2022

[Venezuelan Migration:  
Resisting US Economic War and Media Manipulation](#)

<https://venezuelanalysis.com/analysis/15645>

By Andreína Chávez Alava

ベネズエラの出国者の波は、2017年、ワシントンが石油産業に対する金融制裁を行い、経済危機を悪化させたときから拡大し始めた。ベネズエラの移民を取り巻く厳しい現実と、メディアのプロパガンダの実態を、アンドレイナ・チャベス記者が実体験をもとに考察する。

以下本文

## ・ 出国という行い

### A) アメリカ政府による経済制裁

\* 出国は、ベネズエラの人々がアメリカの封鎖に抵抗するための数多くの英雄的方法の一つとなっています。私の家族も、ワシントンの経済テロで生活環境がますます悪化したため、出国しました。

私の家族のように、異国の地で新たなチャンスを求めて出国した話は、決して特殊なものではありません。

近年、米国の制裁による無数の苦難から逃れるために、多くのベネズエラ人が故郷を離れています。

この制裁という非軍事的な手段は、政権にとって致命的なほどに打撃を与えます。さらに国民全体に苦痛を与え、政府転覆に立ち上がるよう仕向けています。

\* オバマが 2015 年に「異常で並外れた脅威」という大号令を与えて制裁の地盤を築きました。

そして 2017 年に、トランプ大統領がベネズエラに対する「最大限の圧力」キャンペーンを開始しました。

そしていまもバイデン政権は殺人的なトーチを掲げ続けています。

\* ベネズエラは 2014 年の原油価格の暴落ですでに経済危機に陥っていました。それが経済制裁によって悪化し、可能な限りの解決策が封じ込まれました。

5 年前からは、主要な対外収入源である原油をはじめ、金などの鉱物資源の輸出が禁止されました。

2020 年には原油生産量が歴史的な低水準に落込み、ガソリンやディーゼルの不足が国を襲い、生産者に大きな影響を与えました。

\* 米国と欧州諸国は、ベネズエラが海外に所有する数十億ドル相当の企業、資金、金準備を押収し、凍結しています。

また、食料、医薬品、医療機器、さらに水・電気・医療などのインフラを維持するために必要な物資を輸入を妨げています。

米国の金融システムでの取引も禁止されています。こうしてベネズエラは世界市場から実質的に排除されているのです。

\* CLAP と呼ばれる政府補助の食糧配給計画さえ制裁の対象となりました。それは約 700 万世帯に基本的な食料を供給するものです。

ベネズエラは石油と引き換えに、食糧や医薬品、燃料を手に入れることができたのですが、トランプ前政権は、現物スワップ取引の停止にまで踏み切りました。

\*一言で言えば、アメリカは何万人ものベネズエラ人を処刑し、前代未聞の出国の波を引き起こし、残った国民を人質にして集団罰を与えているのです。

## B) 出国 = 海外移住。私たちの家族の場合

\* 出国は最初の経済制裁が行われた 2017 年に増え始めました。それは偶然ではありません。

ベネズエラの人権団体 SURES の報告書によると、その後の 5 年間で約 540 万人が出国しています。国連は出国者数を 710 万人と推定しています。

\* 私の家族の場合は、母がエクアドル生まれということもあり、エクアドルを出国先に選びました。

ベネズエラからの出国は、コロンビア、チリ、ペルー、パナマ、アルゼンチンにも定住しています。

最近では、米国も数は少ないが重要な目的地となっています。

\* 私の家族の期待は単純なものでした。

それは、自分たちや子どもたちが住み、食べ、着ることができ、学校に通うことができるような、まともな賃金のある仕事です。

幸運なことに、私たちはそのすべてを実現し、さらに夢や目標を広げることができました。

\* 2017 年 6 月、最初に下の姉が、夫と二人の子どもとともに出国しました。

彼女は、私たち兄弟と同様、スリア州西部の労働者地域に住んでいました。そこでは燃料不足で公共交通機関が壊滅的な打撃を受け、ディーゼル発電所がほぼ麻痺し、電力危機に拍車をかけました。

\* その夜、彼女たちは慌てて出発しました。

それは当時、ベネズエラでは激しい反対デモで混乱していたからです。コロンビアとの国境が無期限に閉鎖されるとの報道もありました。

コロンビア政府がベネズエラへの食料、燃料、現金の輸送を阻止しようとしていたからです。

それらは反対派の不安定化戦略で、ベネズエラに生活物資と現金の不足をもたらすのが狙いでした。

\* 「私たちは抜け道を通してコロンビアに入りました。みんな大変だったけど、もうチャンスはないと思っていました」と彼女は語っています。彼女にとって、それは生きるか死ぬかの問題のように感じられました。たしかにそうかもしれません。

\* 彼女は言います。「出国前、補助金付きの食料を買うために延々と行列に並びました、だからといって買える保証はありませんでした。もしそれがだめなら、目玉のドビ出るような値段の闇物資しかありません。そんなことはとても無理でした」

\* 私の両親は、2018年初め、30年以上住んだ家を出て国を離れました。

父母とも年金生活でしたが、父は食料や必需品を賄うために仕事に復帰していました。

両親の旅立ちはショックでしたが、私は正直言ってほっとしました。私の稼ぎでは両親を助けることができなかったからです。

\*父は言いました。「出国なんて考えたこともなかったよ。でもしかたなかった。食べ物は手に入らないし、インフレで年金も減ってしまった」

### C) ハイパーインフレと生活破壊

\*2018年、ベネズエラは超ハイパーインフレに見舞われました。その年、物価上昇は13万パーセントに達し、人々の購買力を押しつぶしました。

それが、彼らが出国を余儀なくされた主な理由の一つです。

インフレの大きな原動力となったのは通貨投機でした。ベネズエラの通貨「ボリーバル」は連日売られ続けました。

\*このハイパーインフレはさらに進行しました。その中で次に旅立ったのが兄でした。兄は2019年3月、妻、子供2人、義妹を伴って出国しました。この頃は、ただでさえ疲弊している公共インフラが、テロの標的にされている厳しい時期でした。

\*1週間にわたる全国的な停電がありました。その影響で、兄の収入源である商業活動も含め、国中の活動がストップしてしまいました。当局の発表によると、停電の原因は、主要発電所であるグリのダムに対してサイバー攻撃が仕掛けられたためです。攻撃の出元はヒューストンとシカゴからのものでした。

その5日後、兄は国を離れました。電力網はいまも全く回復していません。

\*兄は言いました。

「停電は最後の決定打だった。もうこれ以上恐怖の中で生活するのはやめよう。インフレで貯金が全部なくなってしまった。一日一食しか食べられない友人もいた。自分の家族がそうなるのを待つわけにはいかないだろう」

兄は私にそう言いました。

\* 2021年に国連の人権専門家アレナ・ドゥハンがベネズエラを訪問し、長文の報告書を発表しています。

その中で彼女は次のように強調しています。

「制裁によって悪化した石油収入の落ち込みが、食糧危機と栄養不良を誘発した」

\* もう一人の姉、長女ですが、ずっと出国に抵抗していました。

ある日突然、彼女は出国を決意しました。

「家族を再会させ、日々の苦難から解放されるときが来た」と感じたからです。

2019年7月、彼女もエクアドルへ渡りました。

\* 彼女の夫は2017年末に国を出ており、毎月の送金で2人の子どもを食わせていました。

しかし、毎日の停電に加え、深刻な調理用ガスの不足にはどうすることもできませんでした。

それは米国の制裁で生産が妨げられたためです。そして米国がLPGの輸入を厳しく制限しているためです。

ベネズエラのかなりの人たちは、薪で調理をしなければなりませんでした。

\* 妹はコロンビアと国境を接するタチラ州の小さな町にある障害児学校のソーシャルワーカーとして働いていたときのことを懐かしく思っています。

エクアドルに3年間滞在しましたが、今はベネズエラに戻るため、そして望むらくは元の学校に戻るためのお金を貯めようとしています。

彼女は「ベネズエラに帰ることを毎日考えている」と、いつも私に話してくれます。

#### D) 出国者の「帰還」の動き

\* 実際、最近になって多くのベネズエラ人が帰国しています。

2021 年末には私の兄とその家族も戻ってきました。兄は出国先である程度の貯蓄を築き、ベネズエラの緩やかな経済回復に励まされ、帰国を決意しました。

帰国後は中古車を購入し、小さなビジネスを始めました。

\* SURES によると、帰還の流れは 2018 年から 2019 年にかけて始まりました。これまでの帰国者の数は、正規と非正規を合わせて 50 万人から 75 万人です。

帰還者の数は、コロナが中南米の国々で社会的危機を悪化させた 2020 年以降に急速に加速しました。

ベネズエラ政府の「祖国への帰還」支援計画は、これまでに 31,000 人以上の帰還を支援しています。

\* 「出国した人々が戻ってきた」という話や、「米国の経済テロがベネズエラ人の国外流出の主な理由である」というような話にびっくりしたかもしれません。

それは世界的なメディアで読んだり見たりしてきたものとはかけ離れているからです。

メディアの描く世界では、制裁などというものは存在しません。あるとしても、それはまるで魔法のように、ベネズエラ政府の権力者のみに作用するものとして描かれているからです。

帰還した人々の実情は、「ベネズエラ政府が人権侵害の権威主義的社会主義を強制し、市民が必死の思いで逃げ出した」というメディアの物語にまったく似合わないのです。

\* 出国者たちは、それまでの独裁政権下でもう一度暮らすために戻ってくるのでしょうか？

それとも、ベネズエラの労働者階級は、単にアメリカの制裁による厳しい経済状況のために一時避難せざるを得なかっただけなのでしょうか？

\* 帰国者の数は、数年の間に日々増え続けています。

出て行った人の数には及ばないかもしれないが、現実には、多くの人に戻ってきています。

なぜなら、ベネズエラは原油価格の上昇を中心に緩やかな景気回復を続けているからです。

事実上のドル化などいくつかの変則的施策によって、緩やかな経済回復を遂げています。

\* 制裁がまだ続いています。危機はまだ終わっているとは言えません。

とはいえ、インフレはすえに後退しました。国際機関によるベネズエラの2022年の成長率は5~20%と予測されています。

\* しかし、ベネズエラの経済はまだ十分な包容力を獲得したとは言えません。そのことを心に留めておく必要があります。

海外にいる多くの人々が、最初の出国国で安定した生活を実現できませんでした。そのために故国ではなく2度目の居住地への旅を選んでいることも忘れてはなりません。

SURESの調査によると、海外にいる50万人のベネズエラ人が二度目の出国を経験しています。それは彼らの権利であり、正当な選択です。

#### **E) 西側メディアは何を報道し、何を報道しないのか**

\* 西側企業のメディアは正直に報道することには関心がありません。彼らはワシントンの命令をうけて、政権転覆の宣伝を広げることに余念がありません。



最近、これらの報道機関は、誤解を広げるような宣伝のために、新しい切り口を見つけました。

\* 米出国局のデータによると、ベネズエラから国外に出国した 276 万人のうち 15 万人のベネズエラ人が、この 1 年の間に南西部の国境に到着しました。この数は全体の 5.43%に過ぎません。

一方、パナマ当局が登録した範囲で 13 万 3 千人のベネズエラ人がダリエン地峡に集結しています。彼らはいずれも第三国に出国した後にパナマに集まってきました。

ダリエン地峡はパナマ地峡より幅が狭いのですが、人を寄せ付けないジャングル地帯です。

その規模や、危険や困難は、決して中途半端なものではありませんし、無視できるものでもありません。

しかし、メディアが描くような大規模な人類的な悲劇とは程遠いものです。メディアは政治的な主張を広げるするために人々の苦しみを利用しているのです。

\* メディアはベネズエラ人「難民」についてハリウッド的な状況を演出してもいます。

白昼、メキシコとアメリカの国境の川リオ・ブラボを横断する、ベネズエラ人出国たちのドラマチックな写真やビデオを見忘れた人などいるでしょうか。

彼らは高価な服を着て、まるでそこに降り立ったかのように見えます。

若い男性が勇ましく川に飛び込んで、年配の女性を救い出す姿は話題になったものです。

しかし後に、彼が中南米のビザを頻繁に取得しているアメリカ人であることが判明しました。

\* 人権団体 SURES は 4 部構成の報告書の中で、このような奇妙な状況を巧みに説明しています。

「メディアは、実際の出国の物語を覆い隠し、結果として、危険で脆弱な状況にある人々への具体的な援助を妨げてきただけだ」

\* 現在進行中のメディア・サーカスの動機の一つは、「悲惨なベネズエラ人」が儲かるビジネスになっていることです。

NGO 複合体、国内野党勢力、政治家、そして各国の右派政府は、何百万ドルもの "救済資金" を確保するために、出国者の話題を切れ味鋭く取り上げるのです。

\* SURES によると、2021 年 1 月まで、ワシントンは "ベネズエラ危機への対応" として、ラテンアメリカ諸国に 12 億ドルを送りました。

コロンビアだけでも 2017 年から 2020 年の間に 9.5 億ドルを受け取っています。2022 年 9 月、アメリカ政府は 3 億 7600 万ドルの追加を発表しました。

\* これらの資金の管理は透明性が全くありません。受給者がベネズエラ人出国に効果的な支援を行った形跡は見当たりません。

## **F) 出国は逃亡ではなく、権利の行使であり、庶民的抵抗の手段である**

\* アメリカの制裁が近い将来（あるいは遠い将来？）どうなるか見通しはありません。

ベネズエラの出国に対する恥知らずな利益誘導とメディア操作は、いつまで経っても終わらないでしょう。

結局のところ、ベネズエラの政権交代はワシントンの外交政策の主要な目標であり続けるでしょう。

そのためにアメリカの高官は人々の命を的に取引することを厭わないのです。

\*私のたくさんの家族は、国境を超えて旅に出ました。たくさんの旅について書こうとしたとき、その主な動機は、卑劣な政治的意図のために奪われた歴史を、私たちの物語として取り戻したいという願いだけだったのです。書いていて気がついたのですが、それは逃げ回る旅ではなく、それ自体が**壮大な抵抗の形なのだ**と思うようになりました。

移住は人間の重要な権利の一つです。ベネズエラの場合は、アメリカ帝国主義に攻撃された国における抵抗する権利、生き抜く権利でもあります。

\*私たち、ベネズエラの人々だけが、出国権の真実の意味を知っています。